



未来を担う若者と

市長と現役高校生との座談会（10月3日）

伊賀市役所本庁舎で、まち・ひと・しごと創生市長と現役高校生との座談会を開き、市長と市内の4つの高等学校に通う生徒13人が話し合いました。

座談会の中で、市長から「今の伊賀市」「5年後、25年後の私たち」「25年後の伊賀市」についての質問を受けると、参加者は将来の自分たちや伊賀市について語り合い、充実した時間を過ごしている様子でした。



▲▶進学や就職など将来に対するさまざまな夢が語られる中、市外に出て伊賀市に戻ってきたいという意見が多く出ました。

素敵な庭づくりをめざして

庭木の整枝剪定講習会（10月5日）



▲刈り込みばさみを使ってきれいに枝を整えました。

伊賀市造園事業協力会の指導のもと、上野公園で庭木の整枝剪定講習会を行いました。

参加者はまず、剪定用具や脚立の使い方、ロープの結び方などの説明を聞いたあと、あらかじめ切り落とされたモミジやマツの枝を使いながら剪定の方法を学びました。そのあと、刈り込みばさみを使って、サツキとツツジの剪定を行いました。

この日は29人が参加し、時折熱心に質問をしながらそれぞれの腕に磨きをかけました。



▲講師の説明を熱心に聞く参加者

個性溢れる作品に

彩々教室（10月16日）

伊賀まちかど博物館普門窯で、島ヶ原公民館教室「彩々教室」を開きました。

今回の教室の内容は陶芸で、講師である伊賀焼伝統工芸士の峰おきのり興徳さんから説明を受け、参加者は粘土を使ってろくろや木の板の上で形を作っていました。お皿やどんぶり、表札など、作る作品はさまざま、積極的に講師に質問をしながら熱心に取り組んでいました。



この教室には15人が参加し、陶芸体験を通して、ものづくりの楽しさを味わいました。

◀陶芸をするにあたっての注意点やコツを講師から聞きました。



◀参加者同士で協力しながら、作品づくりに取り組む姿も見られました。
▼講師に質問をしながら慎重に作業を進めていきました。



食べられる？メモスタンド

みんな集合！こども体験教室（10月17日）



▶完成した作品



▲この日は19人の子どもたちが参加し、上手に作品を仕上げました。

いがまち公民館で、みんな集合！こども体験教室を開きました。

今回は、フェイクスイーツ作家の北出福子さんを講師に招き、樹脂粘土やアクリル絵の具などを使って、本物そっくりのムースのメモスタンド作りに挑戦しました。

子どもたちは講師のアドバイスのもと、色を塗ったり、本物のホイップクリームのように慎重に粘土を絞ったりして作品を完成させました。



▲樹脂粘土のできたイチゴにアクリル絵の具で丁寧に色を塗りました。

本紙2～7ページの「伊賀市の決算状況を報告します」について、わかりやすく解説します。



こども広場

「決算って何だろう？」

「決算」とは1年間で出入りするお金を整理すること

広報いが市5月1日号のこども広場で「予算」について解説したことを覚えていませんか。

みなさんがより良い生活を送るためには何をしたら良いか、そのためにどのくらいのお金が必要かを考えて作るものが予算です。予算で1年間に入ってくる金額（収入）や使う金額（支出）を決めたら、1年の終わりに必ず「決算」をしなければなりません。決算とは、実際に収入・支出した金額がいくらだったのか、また何に使ったのかを整理することで、1年間での収入の結果を「歳入決算」、支出の結果を「歳出決算」と言います。

実際に使った金額が決算額です

例えば、歩道をつくるために100万円かかると予想します。しかし、結果的には98万円で作ることができました。このとき、予想した金額の100万円が予算であり、実際に使われた98万円が決算にな

ります。使わなかった2万円は、次の年度へ繰り越すか、貯金をすることになります。

市が自由に使い道を決められるお金の確保が必要

平成26年度の歳出決算のうち大きな割合を占めているのが、市長や市職員などの給料、子どもや高齢者などの支援にかかる費用、市の借金を返すためのお金や、電気代・水道代などです。歳入決算では、市民のみなさんが納めた税金、国や県から配られるお金、市が借りた借金などが大部分を占めています。

現在、伊賀市の収入は国や県からのお金に頼っている部分が大きくなっています。このお金は使い道が決められていて、市が必要と考える事業などに自由に使うことができません。

市では事業を見直したり節約したりすることで、自由に使えるお金を確保することが課題となっています。

【問い合わせ】 財政課

☎ 22・96008 FAX 22・96994